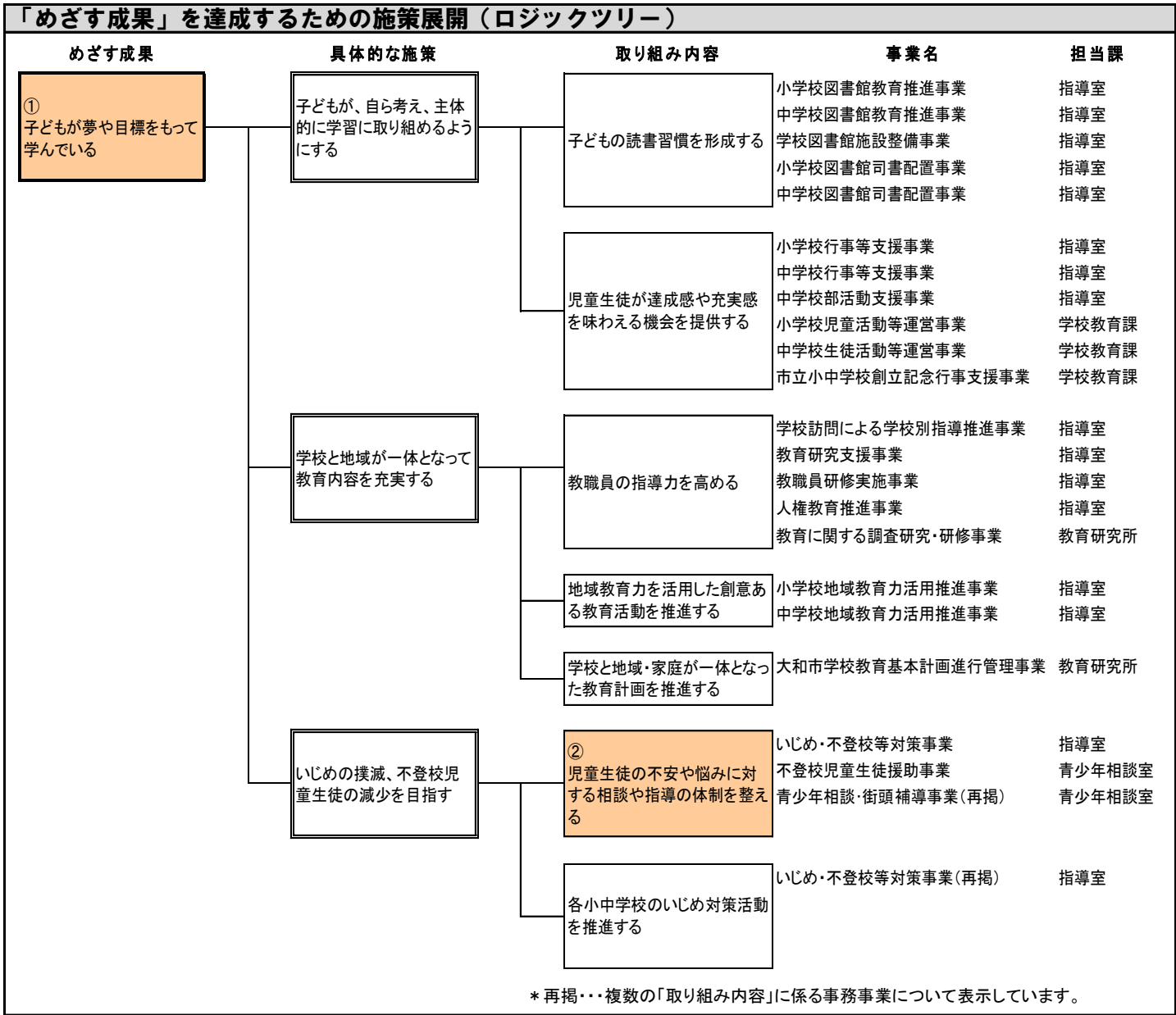


平成25年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
2－2－1　子どもが夢や目標をもって学んでいる		
総合計画体系	健康領域・基本目標	人の健康・子どもが生き生きと育つまち
	個別目標	子どもの生きる力を育む
	めざす成果	子どもが夢や目標をもって学んでいる
		子どもが着実に成長するために、夢や目標をもって学んでいます。



総合計画掲載指標①		総合計画掲載指標②	
将来の夢や目標をもっていると答えた児童生徒の割合		不登校生徒の割合（中学校）	
計画策定時 現状値	75.0%	計画策定時 現状値	4.54%
実績値 （H24）	79.3%	実績値 （H24）	3.53%
中間目標値 （H23）	76.0%	中間目標値 （H23）	3.80%
目標値 （H25）	78.0%	目標値 （H25）	3.00%

所 管 部		教育部	
平成24年度までの取り組み内容		【子どもが、自ら考え、主体的に学習に取り組めるようにする】 ・学校図書館施設整備事業（ウェルカムプラン）による小学校図書館のリニューアルや小中学校全校への学校図書館司書配置などにより、子どもの読書環境が向上しました。平成24年度は、子ども読書フォーラムの開催や大和市独自の読書感想文コンクールを実施し、読書活動の推進を図りました。 【いじめの撲滅、不登校児童生徒の減少を目指す】 ・いじめを児童、生徒が自らの問題として考えるための市内一斉授業や、いじめ防止ポスターの募集、さらに全小中学校でのいじめに関する無記名アンケートを実施しました。 ・不登校児童生徒が通室する学校外の施設として、教育支援教室「まほろば教室」（青少年相談室内）を運営し、学校復帰を支援しました。平成24年度の通室数は34名（前年度33名）に対して、学校復帰数は8名（前年度9名）で、復帰率は23.5%（前年度27.3%）でした。また、不登校を考えるフォーラムを開催しました。 ・関係機関との連携、調整を図り、積極的に働きかけることが可能なスクールソーシャルワーカーを非常勤職員から非常勤特別職員とし、勤務日数を増加するとともに10月から1名増員し、2名体制としました。	
構成事業に対する考え方（事業の量及び実施手法）		・学校図書館教育の推進については、平成25年度から配置する学校図書館スーパーバイザーと司書教諭等が中心となり、校内、家庭、地域、市立図書館とが連携していくことが重要です。また、小学校での成果を踏まえ、今後は中学校図書館の環境整備を進めていきます。 ・平成25年6月にいじめ防止対策推進法が制定され、学校が他機関と連携をとり、いじめ防止対策のための組織を置くこと等が義務付けられたため、学校での早期発見の取り組みの充実や、問題解決力向上及び指導体制の構築を図っていく必要があります。 ・不登校の原因が多岐にわたり対応が難しくなっている中で、不登校の児童生徒を減少させるため、複数の要因を調整して解消に結び付けられるスクールソーシャルワークの果たす役割がますます大きくなっています。	
今後の展開方針		注）例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。	
新規事業の立案		（該当する事務事業）	
既存事業の拡充	・小学校における児童指導体制の充実を図るため、児童支援中核教諭を選任し、当該教諭がいじめ問題の対応などに従事する時間を確保するため、授業の代替等を行う非常勤講師を配置します。 ・平成25年度から施行的に中学校3校、小学校6校でQUテストを活用しており、今後も継続して実施することで、平成27年度までに全校で実施、活用していきます。	（該当する事務事業） いじめ・不登校対策事業	
事業の廃止・縮減	・平成25年度に3校、平成26年度に2校の整備をし、全中学校の図書館整備を終了します。	（該当する事務事業） 中学校図書館整備事業	
事業の効率化		（該当する事務事業）	
その他見直し		（該当する事務事業）	